

学校教育目標

自ら学び考え
主体的に行動する
心豊かな生徒

目指す生徒像

胸をはり
瞳輝く東中生

学校だより 瞳輝 かがや



第14号 令和4年3月15日 川越市立東中学校長 福田和子

「教育が一人前の社会人をつくる」家庭や地域の願いに応える 「守・破・離」の東中三カ年教育

第61回卒業式

式辞より

開校から61年となる東中学校の周辺の様子は、秩父の山並みの風景とともに高層の建物も立ち並び、大きく変化をしています。校庭に目をやると草花が春の陽を浴びながら、第61回卒業生を祝福しています。

本日ここに、卒業式を挙行できることに喜びも一入です。そして、皆さんとこのように一緒に時を過ごすことができ、さらにうれしさがこみあげています。

今、卒業生、一人一人に卒業証書を手渡しました。東中学校の教育計画のもと「守・破・離」の3ヶ年の教育課程を修了し、新たな人生のステージに立つところとなりました。

入学から3年間、皆さんは、一つ一つのことに一生懸命に取り組み、様々な積み重ねをしてきました。毎日仲間とともに学び、関わりを通して多くのことを身に付けてきました。勉強、部活動、委員会活動、係活動。一つ一つのことが力となって今日を迎えました。さらに、人に対する思いやり、優しさを身に付けることで、心豊かに成長しました。

しかし、中学校生活の2年目からは、臨時休業という、かつてない状況となり、それぞれが力を発揮する機会がなくなってしまいました。そのような中でも学年全体が落ち着き、一日一日を大切にしながら、仲間と協力し、工夫して学校生活を送ることができました。このことは、これから皆さんが歩む人生にも、大きな力となってつながっていくはずです。

では、本日の「節目」を迎え、皆さんに考え、行動してほしいことを二つお話します。

一つ目として

義務教育修了とともに「大人」として扱われるということを念頭に、社会の一員として「自覚と責任をもち、正しく判断し、勇気をもって行動する」「周りの人の苦労や努力に目を向け、謙虚な姿勢で感謝の気持ちをもつ」ことができるよう考え、行動してください。また、民法の改正により、18歳が成年年齢となったことから、3年後には、成人としての責任や義務が加わることを考え、日々の行動につなげてください。

二つ目として

今まで以上に「人との関わり、つながりを大切にし、社会の中で生き抜く力」を身に付け続けることです。これまでも皆さんには、「教育が一人前の社会人をつくる」社会に出るために必要なことを身に付ける「守・破・離」の東中学校の教育の重要性について伝えてきました。学校や家庭、地域で学んだことを生かして、自分の力で、人と関わり、つながり、一步を踏み出す「とき」が来ました。これから社会の中で学ぶ、たくさんのことに臆病になり過ぎず、「人と関わり、つながることのできる力を最大限に発揮していけるよう」考え、行動してください。

さて、日本も含め、世界では、SDGs「持続可能な開発目標」達成の2030年に向けて、世界全体が抱える課題を包括的に挙げ、具体的な行動に移すことの重要性が、クローズアップされています。世界で今、まさに起きていることの中には、命、平和が脅かされ、住むところを失い、家族が離れ離れになる状況や平和的な解決が進まず、不平等なことが起きている現実があります。

変化の激しい時代の中で中心的な役割を担っていく皆さんが、未来に向けて、人と関わり、広い視野をもち、この先には、どのようなことが必要かを考えた行動が、できるよう願っています。

東日本大震災から十一年となった年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大からも二年余りが過ぎました。どちらの出来事も私たちが住む日本だけでなく、世界の人々が今までに経験したことのないこととして、改めてこれからの社会について考える機会、人とのつながりの大切さを改めて思う機会となりました。

「自ら学び考え 主体的に行動する 心豊かな生徒」を目標に過ごした3年間で積み重ねた力が、未来に向けた発信力となるよう期待しています。

結びになりましたが、保護者の皆様にお祝いとお礼を申し上げます。お子様のご卒業まことに改めてとうございませう。また、これまで本校の教育の充実発展のために、ご理解とご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。あわせて、ご多用の中、ご臨席賜りましたPTA 会長様にお礼を申し上げます。134名の卒業生、一人一人が、東中学校で仲間とともに過ごし、学んだことを土台として、母校や地域に愛着をもち、これからの人生が大きく広がるよう願って式辞といたします。

「教育が一人前の社会人をつくる」 家庭や地域の願いに応える 「守・破・離」の東中三カ年教育

